

科目	単位 (時間数)	時期	講師名 (職名) (時間数)
周産期の診断・治療論	2 (45)	1 学期	① 院外講師 (産婦人科医師) (21)
			② 院内講師 (小児科医師) (6)
			③ 院内講師 (麻酔科医師) (2)
			④ 院内講師 (整形外科医師) (2)
			⑤ 院内講師 (眼科医師) (2)
			⑥ 院内講師 (薬剤師) (5)
			⑦ 院内講師 (内科医師) (2)
			⑧ 院内講師 (内科医師) (1)
			⑨ 院内講師 (皮膚科医師) (2)
			⑩ 院内講師 (循環器内科医師) (2)

目標

周産期の助産診断に必要な診断と治療について理解できる。

回	時間	項目	授業内容	授業方法	講師
1	2	生殖に関連した疾患	1) 性感染症、不妊症、月経困難症、子宮筋腫、卵巣腫瘍	講義	①
2	2	妊娠期の異常とハイリスク妊娠	1) 妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、HELLP症候群 2) 妊娠持続期間の異常 流産、早産 (頸管無力症、絨毛膜羊膜炎)、過期妊娠 3) 着床異常 異所性妊娠、前置胎盤 4) 胎児付属物の異常 胞状奇胎、羊水過多、羊水過小	講義	
3	2		5) 胎児の異常 多胎妊娠、子宮内胎児死亡、血液型不適合妊娠、胎児発育不全 (FGR) 6) 合併妊娠 子宮筋腫合併妊娠	講義	
4	2		1) 産道の異常 ①CPDの診断法 ②試験分娩 2) 娩出力の異常 ①微弱陣痛 ②過強陣痛 3) 進入の異常 前在頭頂骨進入、後在頭頂骨進入 胎児機能不全とその診断	講義	
5	2		分娩期の異常と産科合併症	4) 分娩に伴う疾患の診断と治療 ①前置胎盤、常位胎盤早期剥離 ②子癇、HELLP症候群、肺塞栓症、羊水塞栓 ③子宮破裂	
6	2				
7	2				

8	2		5) 会陰裂傷・頸管裂傷縫合の基礎知識 外陰血腫 会陰切開・縫合術【模型演習】	講義 演習	
9	2	産科手術・産科処置	6) 産科手術・産科処置 ①分娩時の産道裂傷と処置	講義 演習	①
10	2		②急速遂娩の適応・要約・条件 会陰切開、クリステレル子宮底圧迫法、吸引分娩 ③ハイリスク分娩の管理 誘発分娩、TOLAC（既往帝切後妊娠の経膈分娩トライアル）、双胎の経膈分娩 ④人工妊娠中絶、子宮内胎児死亡 子宮頸管縫縮術 ⑤骨盤位牽出術、帝王切開術	講義	
11	2	新生児の生理と病態、低出生体重児	1) 新生児の生理 2) 新生児の系統的診察法	講義	②
12	2		3) ハイリスク新生児の管理 ①低出生体重児の成長発達の特徴 ②低出生体重児の特徴と治療 ③新生児の疾患と治療 RDS（呼吸窮迫症候群）、MAS（胎便吸引症候群）、TTN（一過性多呼吸）、高ビリルビン血症 低酸素性虚血性脳症、胎児循環遺残	講義	
13	2		④症状と治療 無呼吸発作、慢性肺疾患、低血糖 低カルシウム血症 ⑤新生児外科疾患 （食道閉鎖、横隔膜ヘルニア、鎖肛など） 4) NICU の管理と成育医療	講義	

14	2	産科麻酔、無痛分娩	<p>1) 総論</p> <p>①麻酔の種類 全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔、局所麻酔</p> <p>②産科麻酔の対象 妊娠中の手術、帝王切開、無痛分娩</p> <p>③産科麻酔の特殊性 胎児への影響 母体の生理に由来する危険性</p> <p>2) 各論</p> <p>①妊娠中の手術の麻酔</p> <p>②帝王切開の麻酔</p> <p>③無痛分娩</p>	講義	③
15	2	新生児の整形外科疾患	<p>1) 骨格の発生と発達</p> <p>2) 先天性股関節脱臼の症状、病態、治療</p> <p>3) 先天性内反足</p> <p>4) 先天性骨系統疾患 ダウン症候群、骨形成不全症、軟骨異栄養症、軟骨無形成症、二分脊椎、脊髄髄膜瘤</p> <p>5) 分娩外傷 鎖骨骨折、分娩麻痺（上腕神経麻痺、橈骨神経麻痺）</p> <p>6) 脳性麻痺</p>	講義	④
16	2	新生児と眼疾患	<p>1) 眼の解剖生理</p> <p>2) 胎児期における網膜の発達</p> <p>3) 未熟児網膜症</p> <p>4) 未熟児網膜症の発生機序</p> <p>5) 未熟児網膜症の予防、治療</p>	講義	⑤
17	1	母子の臨床薬理	<p>1) 母体と薬</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠時期による胎児の発生と薬剤の影響（臨界期）</li> <li>・妊娠中に注意すべき薬剤（催奇形性・胎児毒性） アミノグリコシド系抗結核薬 降圧薬、抗けいれん剤、テトラサイクリン系抗生物質、大量のビタミン A、抗てんかん薬、ワファリン、抗がん剤、経口血糖降下薬、非ステロイド系消炎鎮痛薬</li> <li>・妊娠中に使用可能な薬剤 抗生物質、降圧薬、糖尿病薬、抗甲状腺薬、解熱・鎮痛薬</li> </ul>	講義	⑥

18	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>2) 異常妊娠に用いる薬剤 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子宮収縮抑制薬（塩酸リトドリン）</li> <li>硫酸マグネシウム（マグセント注）</li> <li>・妊娠高血圧症候群の薬物療法</li> <li>・子癇発作時の薬物</li> </ul> </li> <li>3) 産褥期の薬剤と児への影響 <ul style="list-style-type: none"> <li>・母乳移行する薬剤</li> </ul> </li> </ul>	講義	
19	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>4) 分娩時に使用する薬剤 <ul style="list-style-type: none"> <li>・陣痛促進剤の特徴、半減期、通常至適濃度、安全限界、プロスタグランディン、オキシトシン</li> </ul> </li> <li>5) 女性と薬 <ul style="list-style-type: none"> <li>・経口避妊薬</li> <li>・性感染症治療薬</li> </ul> </li> <li>6) 骨粗鬆症治療薬</li> </ul>	講義	
20	2	母子の内分泌疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 妊娠糖尿病（GDM） <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠糖尿病の母体合併症</li> <li>児の合併症</li> <li>・妊婦の耐糖能検査、スクリーニング法、診断法</li> <li>・妊娠糖尿病の血糖管理の方法</li> </ul> </li> </ul>	講義	⑦
21	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>2) 甲状腺疾患合併妊娠、検査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・甲状腺疾患合併妊娠における合併症</li> <li>・妊娠中の甲状腺機能検査</li> <li>・甲状腺機能亢進症と妊娠、治療方針</li> <li>・甲状腺機能低下症と妊娠、治療方針</li> </ul> </li> </ul>	講義	⑧
22	2	妊産婦、新生児・乳幼児の皮膚疾患、アレルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 皮膚の構造</li> <li>2) 皮膚の所見（紅斑、紫斑、丘疹など）</li> <li>3) 妊娠期の皮膚変化、皮膚疾患 <ul style="list-style-type: none"> <li>①妊娠中の生理的な皮膚変化（色素沈着、妊娠線）</li> <li>②アトピー性皮膚炎をもつ妊婦の妊娠中の管理</li> </ul> </li> <li>4) 乳幼児の皮膚疾患 <ul style="list-style-type: none"> <li>脂漏性湿疹、おむつ皮膚炎など</li> </ul> </li> <li>5) 乳幼児のアトピー性皮膚炎</li> </ul>	講義	⑨
23	2	母子と循環器疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 妊娠に伴う母体の循環器系の変化</li> <li>2) 心疾患患者の妊娠・分娩</li> <li>3) 妊娠に関する循環器的問題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・仰臥位低血圧症候群</li> <li>・血栓症</li> <li>・羊水塞栓症</li> <li>・周産期心筋症</li> </ul> </li> </ul>	講義	⑩
24	1	終講試験（45分）		試験	①

授業形態	講義
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 (講師① 50点、講師② 25点、講師⑥ 25点) 履修規程第5条、第6条に定めるとおりとする。
テキスト	講師① ・助産学講座 2 ・助産学講座 6 ・助産学講座 7 ・分娩介助学 (産科手術・産科処置の頁) 講師② ・助産学講座 8 ・新生児学入門 講師③ ・助産学講座 7 講師④⑤ ・助産学講座 8 講師⑥⑦⑧⑩ ・助産学講座 6 講師⑨ ・助産学講座 6 ・助産学講座 8
参考図書等	・産婦人科診療ガイドラインー産科編 2023 ・産婦人科診療ガイドラインー婦人科外来編 2023
備考	講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。

科目	単位 (時間数)	時期	講師名 (職名) (時間数)
※ 助産診断・技術学 I	2 (45)	1 学期	① 教育主事 (助産師) (13) ② 教員 (助産師) (10) ③ 教員 (助産師) (10) ④ 院外講師 (助産師) (4) ⑤ 院外講師 (助産師) (8)

目標

妊娠期における助産過程の展開に必要な診断と技法、および助産の実践に必要な基本技術を修得できる。

回	時間	項目	授業内容	授業方法	講師
1	2	妊娠期の助産診断と助産過程の展開【事例学習】	1) 助産診断学の概要、診断類型 2) 妊娠経過の診断 (母体・胎児及び付属物) 3) 健康生活診断 基本的ニード、心理的側面、社会的側面、出産育児行動	講義	①
2	2		4) 妊娠期の助産診断 (京野 都さん事例) ①妊娠初期の助産過程の展開 1 パラグラフ 1 ※妊娠の診断法含む	講義	
3	2		②妊娠初期の助産過程の展開 2 パラグラフ 2 ※妊娠初期検査とデータ解釈含む 母子感染症	講義	
4	2		③妊娠中期の助産過程の展開 3 パラグラフ 3 ※妊娠中期の検査、胎児評価含む	講義	
5	2		④妊娠後期の助産過程の展開 4 パラグラフ 4 ※妊娠後期の異常予測含む	講義	
6	2	妊娠期の助産技術	1) 妊婦のフィジカルアセスメントと助産技術 ・腹部触診、胎児心音聴取、骨盤外計測 ※内診は「助産技術演習」で教授	演習 GW	②
7	2		2) 妊婦健康診査シミュレーション① 京野 都さん事例 パラグラフ 4 妊娠 32 週場面 ロールプレイ	演習 GW	
8	2		妊婦健康診査シミュレーション② S「最近・・・」 妊婦の訴えに対応してみる	演習 GW	

9	2	妊娠期の主体性を尊重した出産を支援するケア	1) セルフケア能力を高める支援 ①妊娠期の栄養指導 ②母乳育児推進と乳房ケアの基礎理論	講義 GW	②
10	2		③出産準備教育、バースプラン ④マイナートラブルに対する援助 ⑤妊娠期に必要な届け出と保護規定	講義 GW	②
11	2	妊娠期の正常からの逸脱の診断とケア	1) 妊娠期の正常からの逸脱の診断とケア ①切迫流産・切迫早産	講義 GW	①
12	2	ハイリスク妊娠のアセスメントとケア	②糖代謝異常合併 ③甲状腺疾患合併	講義 GW	②
13	2		④妊娠高血圧症候群 ⑤子宮筋腫合併	講義 GW	
14	2		⑥多胎妊娠、子宮内胎児発育遅延 ⑦前置胎盤	講義 GW	
15	2	心理・社会的問題をもつ妊婦のケア	1) 心理・社会的問題をもつ妊婦のケア 若年妊婦、高齢妊婦、在日外国人 特定妊婦のケアと多職種連携	講義	④
16	2				
17	2	周産期の超音波診断法、ME 機器とその診断法	1) ME 機器とその診断法 ①胎児心拍陣痛図判読の実際 ・妊娠期の評価、分娩期の評価	講義	⑤
18	2				
19	2		②超音波による診断 妊娠初期、妊娠中・後期 超音波による血流計測 ③包括的な胎児の健康状態の把握 ・バイオフィジカル・プロフィールスコア	講義 演習	
20	2		2) 超音波診断法の実際 【演習】 ・診断装置と使い方		
21	2	妊婦健康診査シミュレーション③ (金魚鉢式) シミュレーション、デブリーフィング		演習	③
22	2	妊婦健康診査 OSCE、リフレクション		試験	
23	1	終講試験 (45分)		試験	①
授業形態	講義、演習、GW				
評価方法 点数配分	筆記試験 80点 (講師① 30点、講師② 30点、講師⑤ 20点) 技術試験 (妊婦健康診査 OSCE) 20点 (講師①②③) 履修規程第5条、第6条に定めるとおりとする。				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産学講座 6</li> <li>・助産師基礎教育テキスト 4</li> <li>・助産師基礎教育テキスト 7</li> </ul>				
参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マタニティ診断ガイドブック</li> <li>・産婦人科診療ガイドライン 2023 産科編</li> </ul>				
備考	講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。 ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である				

科目	単位(時間数)	時期	講師名(職名)(時間数)		
※ 助産診断・技術学Ⅱ	1 (30)	1 学期	① 教員 (助産師) (28) ② 院外講師 (助産師) (2)		
目 標					
分娩期における助産過程の展開に必要な診断と技法、および助産の実践に必要な基本技術を修得できる。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	講師
1	2	分娩の生理	1) 分娩3要素と分娩機転 2) 骨産道 ①骨盤を形成する骨、骨盤の区分 ②骨盤入口の形態 ③骨盤潤部と骨盤開角、仙骨形態 ④骨盤出口部と恥骨弓角 ⑤骨盤の形状と分娩の異常 児頭骨盤不均衡、反屈位、 児頭下降停止 ⑥X線骨盤計測および読影 3) 軟産道 ①子宮下部 ②会陰及び骨盤底筋群 ③産道に関連する血管—子宮動脈—	講義	①
2	2		4) 娩出力 ①陣痛の測定法、強さの表現法 ②腹圧(怒責、いきみ) 5) 胎児および付属物 ①胎位・胎勢・胎向 ②胎児の産道通過 —児頭の固定・陥入—回旋異常 6) 分娩が母体及び胎児に与える影響 ①母体の身体的変化、心理的变化 ②胎児の健康度の評価	講義	
3	2	分娩期の助産診断と助産過程の展開 【事例学習】	1) 分娩期の助産診断、診断類型 2) 経過診断 分娩時期、経過の正常・異常の予測 胎児健康度の診断 3) 健康生活診断 基本的ニード、心理的側面、社会的側面、出産育児行動	講義	
4	2		4) 分娩期の助産診断(京野 都さん事例) ①入院時の初期診断 (パラグラフ1) ・分娩開始徴候、分娩開始の診断、入院判断、分娩経過の予測 ②胎児健康度の診断 ・胎児心拍数図の判読	講義	

回	時間	項目	授業内容	授業方法	講師	
5	2		③分娩第1期の診断とケア (パラグラフ2) ・ケアプランの立案 ・助産診断の評価と修正(加速期) ・内診のタイミング、破水の診断	講義	①	
6	2		④分娩第2～3期の診断とケア (パラグラフ3) ・子宮口全開大の近づいた徴候 ・分娩の準備時期 (器材準備、分娩室移動、分娩体位)	講義		
7	2		⑤分娩後2時間の診断とケア (パラグラフ4) ・子宮復古の観察と判断 ・母子早期接触ケアと判断 ・離床開始時期の判断 ・助産録の記載	講義		
8	2		1) 入院～分娩第1期ケア ・産痛緩和、体位の工夫 ・基本的ニードの充足、分娩促進ケア 呼吸法、リラクゼーション、栄養 排泄、睡眠 ・家族への支援 2) 分娩直後～2時間のケア ・バースレビュー ・排尿ケア	講義		
9	2		分娩介助技術 の理論	1) 産婦のフィジカルアセスメントと助産 技術 ・陣痛の観察 ・胎児心拍数モニタリングと判読法 (胎児機能不全の診断と対応含む)		講義
10	1			・内診の診察項目と評価法(演習)		演習
11	2		分娩期の正常 からの逸脱の 診断とケア	分娩期の正常からの逸脱の診断とケア ①前期破水 ②微弱陣痛、回旋異常、陣痛促進		講義
12	2			③誘発分娩		講義
13	2		④産科危機的出血	講義		

回	時間	項目	授業内容	授業方法	講師
14	2	分娩期の正常からの逸脱の診断とケア	⑤帝王切開分娩の母児のケア ・手術室での助産師の役割 ・児娩出後の処置、帰棟後のケア ・母体帰室後のケア	講義	①
15	2		⑥無痛分娩（硬膜外麻酔分娩）のケア	講義 演習	②
16	1		筆記試験（45分）	試験	①
評価方法	筆記試験 100点（講師①②） 履修規程第5条、第6条に定めるとおりとする。				
テキスト	講師① ・助産学講座7 ・助産師基礎教育テキスト5 ・分娩介助学 ・胎児心拍数モニタリング講座 講師② ・助産学講座7 ・無痛分娩パーフェクトガイド				
参考図書等	・マタニティ診断ガイドブック ・産婦人科診療ガイドライン2023 産科編				
備考	・事例学習は予習を前提として授業に臨むこと。 ・授業時期は並行あるいは前後することがある。 ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である				

科目	単位(時間数)	時期	講師名(職名)(時間数)
※ 助産診断・技術学Ⅲ	2(45)	1学期	① 教員(助産師)(21) ② 院内講師(助産師)(4) ③ 院外講師(助産師)(2) ④ 院内講師(助産師)(8) ⑤ 院内講師(助産師)(10)

目 標

産褥・新生児期における母子助産過程の展開に必要な診断と技法、および助産の実践に必要な基本技術を修得することが出来る。

回	時間	項目	授業内容	授業方法	講師
1	2	産褥期の助産診断と助産過程の展開 【事例学習】	1) 産褥期の助産診断、診断類型 2) 経過診断 産褥復古の診断 3) 健康生活診断 基本的ニード、心理的側面、社会的側面、出産育児行動	講義	①
2	2		4) 産褥期の助産診断(京野 都さん事例) ①産褥1日目の助産過程の展開1 パラグラフ1	講義 GW	
3	2		②産褥4日目の助産過程の展開2 パラグラフ2	講義 GW	
4	2	新生児期の助産診断と助産過程の展開 【事例学習】	1) 新生児期の助産診断、診断類型 2) 経過診断 生後24時間以内の生理的变化 胎外生活適応の診断(生後24時間以内) 新生児の成熟度評価 (外表的所見、神経学的所見) 生理的黄疸、生理的体重減少の診断 正常逸脱の診断とケア 3) 健康生活診断 養護、環境 4) 新生児期の助産診断(京野 都ベビー事例) ①生後24時間以内の助産過程の展開1 パラグラフ1	講義 GW	
5	2		②生後4日目の助産過程の展開2 パラグラフ2	講義 GW	

6	2	産褥期の助産技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 産褥復古を促す援助</li> <li>2) 日常生活の援助 栄養、排泄、睡眠、動静、清潔 不快症状とセルフケア</li> <li>3) 育児、家庭生活へ向けての援助 入院中の保健指導：育児、授乳 産後の動静、性生活、家族計画</li> <li>4) 親役割獲得の援助 母子・父子関係</li> <li>5) 退院後の継続ケアと地域社会資源との連携</li> </ul>	講義	①
7	2	産褥期の正常経過からの逸脱の診断とケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 産褥の正常逸脱が予測される分娩時の状況とリスク査定、予防、早期発見・対処</li> <li>①分娩に伴う損傷 (会陰裂傷Ⅲ度以上、外陰部血腫)</li> <li>②弛緩出血後</li> <li>③子宮復古不全 胎盤ポリープ、晩期産褥出血</li> <li>④産褥熱、尿路感染症</li> <li>⑤恥骨結合離開</li> <li>⑥マタニティブルー、産褥精神障害</li> <li>⑦乳腺炎</li> </ul>	講義	②
8	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧静脈瘤、塞栓症</li> <li>⑨帝王切開術後のケア</li> </ul>	講義	
9	2	心理・社会的問題をもつ褥婦のケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 産褥うつスクリーニング (EPDS)</li> <li>2) 虐待のリスク査定と多職種連携</li> <li>3) 特定妊婦の地域連携</li> </ul>	講義	
10	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>4) 周産期のメンタルヘルス ・マタニティブルーズ ・産後うつ</li> </ul>	講義	③
11	2	乳房ケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 母乳育児推進</li> <li>2) 乳房ケア ・産後の乳房の変化と乳汁分泌の生理 ・乳房ケアの基礎理論 (ラクテーション、BS ケア、SMC、桶谷式など)</li> </ul>	講義	④
12	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>3) 母乳育児支援の実際 ・ポジショニング、ラッチ・オン ・母子分離時のケア ・補足の判断</li> </ul>	講義 演習	
13	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>4) 母乳栄養確立への支援 ・出産前教育 ・産褥入院中のアセスメントと評価 ・退院後の母乳栄養継続への支援</li> </ul>	講義	

14	2		5) 特別な支援を必要とする場合のケア ・乳汁うっ滞時のケア ・乳腺炎のケア ・断乳を余儀なくする場合	講義	④
15	2	新生児期の助産技術	1) 新生児の健康診査法、諸計測 ・系統的診察法、バイタルサイン測定 ・成熟度評価、神経学的評価法	演習	①
16	2		2) 新生児の沐浴の実際 新生児の沐浴技術		
17	2		沐浴技術試験 リフレクション	試験	
18	2	ハイリスク新生児の診断とケアの実際	1) 出生後 24 時間以内の生理的变化、アセスメントとケア 2) 早期新生児期（生後 7 日目まで）のアセスメントとケア	講義	⑤
19	2		3) ハイリスク新生児のケアの原則 (1) ファミリーセンタードケア (2) ディベロップメンタルケア (3) 母乳育児への支援 (4) 感染対策 (5) フォローアップ (6) ハイリスク新生児のケアと倫理的課題 4) NICU の管理	講義	
20	2		5) アセスメントとケアの実際 (1) 体温管理 (2) 呼吸・循環管理 (3) 黄疸の管理 (4) 栄養管理 (5) 合併症に対するケア (未熟児網膜症、未熟児貧血等)	講義	
21	2		6) 親子関係発達促進ケア 7) 退院時期のケア (1) 障害なく退院する児・家族へのケア (2) 地域連携 ・障害を持って退院する児・家族へのケア ・医療的介入が必要なまま退院する児・家族へのケア ・死亡退院の場合の児・家族へのケア	講義	

22	2		8) ハイリスク新生児のケア【演習】 ①保育器の原理、取扱いの実際 ②入院受け入れ～急性期ケアの実際 ③保育器収容中の児のケアの実際 観察、環境調整、おむつ交換、 ④ディベロップメンタルケア	演習	⑤
23	1		筆記試験 (45分)	試験	①
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験 80点 (講師①30点、講師②10点、講師④20点、講師⑤20点)</li> <li>・技術試験：沐浴技術 20点 (講師①)</li> </ul> <p>*筆記試験、技術試験をそれぞれ合格することで単位認定する。 履修規程第5条、第6条に定めるとおりとする。</p>				
テキスト	講師① <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産学講座7</li> <li>・助産学講座8</li> <li>・助産師基礎教育テキスト6</li> <li>・助産師基礎教育テキスト7</li> </ul> 講師② <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産学講座7</li> <li>・助産師基礎教育テキスト6</li> <li>・助産師基礎教育テキスト7</li> </ul> 講師③ <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師基礎教育テキスト7</li> </ul> 講師④ <ul style="list-style-type: none"> <li>・母乳育児支援スタンダード</li> <li>・助産学講座7</li> <li>・助産師基礎教育テキスト6</li> </ul> 講師⑤ <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産学講座8</li> <li>・助産師基礎教育テキスト7</li> </ul>				
参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マタニティ診断ガイドブック</li> <li>・助産業務ガイドライン2024 「正常分娩急変時のガイドライン」</li> <li>・エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期・産褥期2023</li> <li>・日本助産学会 (日本助産学会ホームページ参照)</li> </ul>				
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例学習は予習を前提として授業に臨むこと。</li> <li>・講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。</li> </ul> <p>※この科目は実務経験のある教員による授業科目である</p>				

科目	単位 (時間数)	開校時期	講師名 (職名) (時間数)		
※ 助産技術演習	1 (30)	1 学期	① 教員 (助産師) (24)	② 院内講師 (助産師) (2)	③ 院外講師 (助産師) (4)
目標					
助産の実践に必要な分娩介助技術を修得できる。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	講師
1	2	分娩介助技術 の理論と実際	1) 分娩の準備 ・分娩室の環境、器材準備 ・手指消毒・ガウンテクニック (試験)	演習	①
2	2				
3	2		2) 分娩体位の調整 ・産婦の準備 (分娩体位) ・外陰部の消毒と清潔野の作成	演習	
4	2		3) 分娩介助技術 (分娩機転と介助法) ・肛門保護、人工破膜、会陰保護 ・胎児娩出介助 ・出生直後の児のケア	演習	
5	2		アプガースコア判定	演習	
6	2		3) 胎盤娩出介助 4) 軟産道診査 5) 母児の早期接触 6) 助産録の記録	演習	
7	2	分娩介助技術 (ファントム演習)	1) 模型演習 1 (グループ演習)	演習	②
8	2		2) 模型演習 2 (グループ演習)	演習	
9	2		3) 模型演習 3 (グループ演習) 中間チェック	演習	
10	2		4) 模型演習 4 (グループ演習)	演習	
11	1		5) 模型演習 5 (グループ演習)	演習	
12	2		6) 胎盤精査と計測、出血量計測 7) 間接介助の役割、直接介助者との連携	講義 演習	
13	2	異常分娩の助 産診断とケア (異常判断と 適切なケア)	1) 分娩介助技術 さまざまな分娩体位と介助法 ①フリースタイル分娩)	講義 演習	③
14	2		2) 異常分娩の助産 ②急速遂娩の診断と介助 (演習) 吸引分娩の適応・要約・条件 介助法	演習	
15	2		③双胎の経膈分娩介助	講義 演習	
16	1	分娩介助技術試験 (ファントム試験) (45 分)			①
授業形態	講義、演習				

評価方法 点数配分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手指消毒・ガウンテクニック試験に合格した上でファントム演習に臨むこと。</li> <li>・分娩介助技術試験 100点 (講師①②)</li> </ul> 履修規程第5条、第6条に定めるとおりとする。
テキスト	講師① <ul style="list-style-type: none"> <li>・「分娩の介助技術」印刷テキスト</li> <li>・分娩介助学</li> <li>・写真でわかる助産技術アドバンス</li> </ul> 講師② <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産学講座7</li> </ul> 講師③ <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産学講座7</li> <li>・助産師基礎教育テキスト7</li> <li>・分娩介助学</li> </ul> 講師④ <ul style="list-style-type: none"> <li>・無痛分娩パーフェクトガイド</li> </ul>
参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マタニティ診断ガイドブック</li> <li>・産婦人科診療ガイドライン2023 産科編</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「助産学実習Ⅱ分娩期」における分娩介助の実施は、本科目の単位修得を前提とする。</li> </ul> (履修規程第4条2) 助産学科の先修条件参照 ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である

科目		単位 (時間数)	時期	講師名 (職名) (時間数)	
※ 助産臨床推論		2 (45)	1 学期	① 教育主事 (助産師) (25)	
				② 教員 (助産師) (12)	
				③ 院内講師 (助産師) (4)	
				④ 院外講師 (助産師) (4)	
目 標					
臨床推論の基礎を学び、周産期における母子の判断に必要な思考力を修得できる。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	講師
1	2	助産臨床推論 総論	1) 助産臨床推論 総論 ・臨床推論モデル ・臨床推論の3ステップ 系統的情報集、スピードとトレンド ・疾患論アプローチ、症状論アプローチ ・疾患スクリプトの発達	講義	①
2	2	妊娠期の臨床 推論	2) 妊娠期の臨床推論 ・下腹部痛	講義	
3	2		・呼吸困難	講義	
4	2		・頭痛、意識障害	講義	
5	2		・性器出血	講義	
6	2	分娩期の臨床 推論	1) 分娩期の臨床推論学習プログラム ①第1段階 (知識整理) 【事例1】 初産婦、前期破水 ・因子判別、入院時診断、初期プラン ・初期診断 ・パルトグラムの記載 ・リフレクション	講義 GW	①
7	2		②第2段階 (臨床思考) 【事例2】 経産婦 ・電話場面における臨床推論と対応 ・来院場面における臨床推論と入院判 断 ・初期診断とケアプラン ・リフレクション	講義 GW	
8	2				
9	2		③第3段階 (統合) 【事例3】 -シミュレーション- 経産婦、早期破水 ・分娩進行の判断と診断修正 ・CTG判読 ・分娩準備の判断、応援要請 ・パルトグラム、助産録の作成 ・リフレクション	演習 GW	
10	2				
11	2				

12	2		④第4段階（応用）【事例4】 初産婦、回旋異常、微弱陣痛 加速期遷延 ・分娩進行の判断と診断修正 ・医師への報告タイミング、SBAR 報告 ・陣痛促進剤の使用時の管理 ・リフレクション	講義 GW	
13	2				
14	1		・入院時の助産診断（初期診断） 記述	試験	
15	3	産褥期の臨床 推論	1) 産後にみられる症状と考えられる疾患、観察と判断視点、対応 ①呼吸困難	講義 GW	②
16	2		②頭痛	講義 GW	
17	2		③外陰部の疼痛	講義 GW	
18	2		④発熱	講義 GW	
19	2		⑤不眠、流涙	講義 GW	
19	2	新生児期の臨床 推論	1) 生後 24 時間以内に見られる症状と考えられる疾患、観察と判断視点、対応 ①呼吸障害 ②黄疸 ③けいれん	講義 GW	③
20	2				
21	2		2) 新生児仮死蘇生法の実際（演習） 新生児仮死の評価と蘇生法（NCPR）	講義 演習	
22	2				
23	1	筆記試験（45分）		試験	②
授業形態		講義			
評価方法 点数配分		筆記試験 40 点（分娩期初期診断記述）（講師①） 筆記試験 60 点（臨床推論）（講師①20 点、講師② 20 点、講師③20 点） 履修規程第 5 条、第 6 条に定めるとおりとする。 *筆記試験、技術試験をそれぞれ合格することで単位認定する。			
テキスト		講師① ・助産学講座 5・6・7 講師② ・助産学講座 7・8 講師③ ・助産学講座 8 ・新生児学入門 講師④ ・日本版 救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト			
参考図書等		・マタニティ診断ガイドブック ・助産業務ガイドライン 2024 「正常分娩急変時のガイドライン」 ・助産雑誌 2024 vol. 78 no. 1～6 連載 「助産師の臨床推論を学ぼう！」			
備考		・講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。 ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である。			



科目		単位 (時間数)	開校時期	講師名 (職名) (時間数)	
健康教育技法		1 (30)	1 学期	① 教育主事 (助産師) (5)	② 教員 (助産師) (11)
				③ 院外講師 (助産師) (2)	④ 院外講師 (助産師) (4)
				⑤ 院外講師 (臨床心理士) (8)	
目 標					
健康教育の原理と技法を理解し、女性の一生を通しての性と生殖に関わる健康問題について、助産の実践に必要な相談・教育・援助技術の基礎的技術を修得できる。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	講師
1	2	健康教育の理論、技法	1) 健康教育とは 2) 健康教育の課題 ・健康教育の歴史的変遷 ・これからの保健指導 ・個別健康支援プログラムの必要性 3) 保健行動モデル ①保健行動の定義・分類 ②セルフケア行動とコンプライアンス行動 ③保健行動のモデル 宗像のシーソーモデル ヘルス・ビリーフ・モデル プリシード-プロシードモデル、P/W モデル 4) ヘルスプロモーションの考え方 ①ライフスキル ②ヘルスプロモーションのライフスキル	講義	①
2	2	健康教育の実際	1) 健康教育の基礎理論の活用 ①小集団形成過程の理解 (形成期-混乱期-規範期-活動期) ②リーダーとリーダーシップスタイル 2) 健康教育と保健指導の形態 個人指導と集団指導	講義	
			3) 集団指導に応用される討議法 ・集団討議法 (ラウンドテーブル・ディスカッション) ・シンポジウム ・パネルディスカッション ・フォーラム、バズセッション 4) 健康教育における教育技術 ・仲間集団討議 (ピアグループ・ディスカッション) ファシリテーターの役割 ・講義・講演法 ・体験・参加型教育	講義	
3	2	健康教育技術 (演習)	1) 学級活動の企画・運営・評価 (1) 健康教育のプロセス (2) 保健指導技術 (演習)	講義 GW	②
4	2		①健康ニーズの把握と対象のアセスメント ②教育目標の設定、企画書作成の実際		

5	2	健康教育技術 演習	(3) 指導案の作成 (4) 実施と評価 計画：組織図、役割と責任、評価計画 ヒト、モノ、カネ、時間、場所の計画 評価：プロセス評価、成果効果 企画評価	講義 GW	②
6	2				
7	3		・中高生への性教育講座 「赤ちゃん講座」 ・妊婦と家族への出産前準備教室 「ファミリー教室」 企画書検討会	演習 GW	
8	2		3) 訪問指導技術（演習） ・家庭訪問		演習
9	2	女性のライフ サイクルにお ける性と生殖 に関する健康 問題と援助	1) 思春期女性の健康問題とケア 摂食障害、月経異常、性感染症 思春期を対象とした性教育 ピア・カウンセリング	講義	④
10	2				
11	2	カウンセリング の技法	1) 「聴く」ことの基本姿勢 ①カウンセリングの定義 ②カウンセリングの対象と目標	講義	⑤
12	2		2) 治療的なコミュニケーション 望ましい応答・望ましくない応答 (ロールプレイ)		
13	2		3) カウンセリングの基本 ①ノンバーバルコミュニケーション ②ネガティブ・メッセージの伝え方 ③アサーティブとネゴシエーション ④カウンセリングの「枠」：時間、料金、 部屋 ⑤治療的距離	講義	
14	2		4) カウンセリング技法 ①明瞭化、要約、探索、反映 ②自己開示 ③ピア・カウンセリング ④グループワーク	講義	
15	1	終講試験（45分）		試験	①
授業形態	講義、演習				
評価方法 点数配分	筆記試験 75点（講師① 25点、講師③10点、講師④ 10点、講師⑤ 30点） 企画書 25点（講師②） 履修規程第5条、第6条に定めるとおりとする。				
テキスト	講師①～⑤ ・助産学講座5 講師④ ・助産師による思春期の健康教育				
参考図書等	・助産師基礎教育テキスト2				
備考	講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。				